

事例番号:310153

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 38 週 3 日 胎児心拍数陣痛図で基線細変動あり、一過性頻脈あり

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 0 日

時刻不明 胎動消失あり受診

15:20- 胎児心拍数陣痛図で、基線細変動減少、一過性頻脈消失、遅発一過性徐脈あり

15:35 胎児機能不全の診断で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

16:32 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯巻絡あり(頸部 1 回)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 0 日

(2) 出生時体重:2990g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.231、PCO<sub>2</sub> 64.4mmHg、PO<sub>2</sub> 5.0mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 27.0mmol/L、BE -1.6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 4 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死、新生児低血糖

(7) 頭部画像所見:

生後 16 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常を認め、低酸素性虚血性脳症の診断

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 2 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、入院前の妊娠 38 週 3 日以降、入院となる妊娠 39 週 0 日までの間に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経障害であると考えられる。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

(3) 出生後の低血糖の持続が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

**3. 臨床経過に関する医学的評価**

**1) 妊娠経過**

妊娠中の管理は一般的である。

**2) 分娩経過**

(1) 妊娠 39 週 0 日、妊産婦が胎動がないという訴えで受診した際に分娩監視装置を装着したこと、胎児心拍数陣痛図の判読(基線細変動が消失、一過性頻脈がなく遅発一過性徐脈を認める)と対応(帝王切開決定)および血液検査実施は、いずれも一般的である。

(2) 帝王切開決定から 57 分後に児を娩出したことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

**3) 新生児経過**

(1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

(2) 新生児仮死のため、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

#### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

##### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、分娩経過中の胎児心拍数陣痛図に異常が認められた場合等には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

##### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児に重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

##### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

###### (1) 学会・職能団体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

###### (2) 国・地方自治体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。